

# 韓国の南の端にある一番小さい村の人々が 7年以上闘い続けてきたこと自体が希望です



チョ・ソンボン 監督

ドキュメンタリー映画「クロンビ、風が吹く」  
をもって来日し、日本各地で上映

去年の秋に済州島を訪れたのをきっかけに進めてきた映画の監督を招いての上映ツアーが無事に終わった。おかげさまで各地の上映会は好評のうちに終わり、さらに口込みで広がりがつつある。クロンビの映画は今後もDVDでの上映を続けて行く予定で、また映画上映とは別の形でもカンジョンとのつながりを広げていけないか考えているところだ。そして同時にカンジョンとシンクロしている辺野古の闘いにももっと関わられたらと思っている。

この映画のことは本誌で何度も取り上げてきたので最後に報告を兼ねて監督へのインタビュと上映会トークの中からの発言を紹介しよう。(浜田)

— 日本での「クロンビ」の映画上映で去年の秋に沖縄と北海道に来られたそうですが、日本に初めて来たのはいつですか？

●2001年に福岡を経由して広島へ行った。日本軍の慰安婦裁判2審を撮影するためだった。3泊4日の日程だから、ただ通り過ぎただけだと言えるだろう。

— 今回のように長いツアーをしたことはありますか？

●2001年に中国に住んでいる日本軍元慰安婦のお婆さんたちを撮影しに行った事がある。15日間、中国に滞在した。今度の日本ツアーのように移動距離も長くて遠く、バスで8時間移動したりした。私にとっては暮すのもツアーと言える。今済州に滞在していることも私の人生のツアーではないのか？^^

— 今回、日本で印象的だったことは？

●地方の農村地域の家がすごくきれいだった。木造建物も良かったし、家の大きさもみんなが暮すに十分だという印象を受けた。韓国に比べて基本的な暮らしが非常に安定的という感じを受けた。通りもすごくきれいで商売をする店もきれいで落ち着いていた。お金や物質よりは時間や歴史みたいな哲学的

価値が体にしみついているという気がした。人々もみんな優しく親切だった。もちろん「クロンビ、風が吹く」を上映しに来た監督だからよくしてくれようとする気持ちがあったと思うが…。

— 上映会の主催者や参加者の印象は？

●すごかった。特に宿泊をさせてくれた所はさらにそうで、感動的だった。私ならそんなことができるかと反省もした。誠意と人間愛がにじみ出ていた。たくさん学んだ。彼らももし済州へ来たら私もそんなふうによくもてなしたい。

— 主催した人の中にはPCやインターネットを使用していない人や、また、電気や水道設備もひかずに生活をしている人がいましたが、どのように思いましたか？

●一緒に暮らすことができれば最高の人生です。しかし、私はインターネットと電気なしで作業を行うことができないので、地球に申し訳なくて胸が痛みます。

— 観客の反応で印象的だったこと、考えたことはありますか？

●韓国での映画祭上映でもそうだったが日本

観客たちの反応はとても良かった。軍事基地に対する基本的な問題意識を持って来るからさらにそうではないかと思う。映画に登場する人物のうち、ヤン・ユンモやキム・ミリョンに対する反応、そして音楽に対する反応は期待以上だ。同じ時期にアメリカでもツアーをしたことを知っているだろう。みんな似ている反応だ。しかし文化的な差も少しはあると思う。日本の観客はより感性的なアプローチをするようだ。もちろんなるべくそうしたかったのが私の意図でもある。アメリカ上映では「海軍基地絶対反対」を全面に出しながら観客にアプローチするから、日本では映画そのもので観客たちと出会いたかった。これは日本自主上映主催者の意図でもあったことを知っている。私も同意したし…、それで意図的に過激な表現を控えたところもある。もちろん私の性格でもある。また観客たちによって沖縄軍事基地問題がたくさん言及されたことも良かった。

— クロンビの映画は韓国でまだ封切りしてないようですが、いつの予定ですか？

●急ぎたくない。まだカンジョンの軍事基地の闘いは進行中だ。私の怠惰も理由ではあるが、すでにカンジョンの問題を扱ったドキュメンタリーは2010年から毎年1作ずつ作られている。韓国の観客たちには「食傷した」

素材であるかも知れない。そのため、もっと用心深いのだ。それにちゃんと撮影できなかった部分がある。カンジョンの海もそうだし海女たちの姿もそうだ。どんな状況であれ計画通りに進むなら8月には可能だろう。

——日本で上映したのから更に編集するのですか？(内容が変わりますか?)

●当然だ。これまで扱えなかった話をもっと入れるだろう。クロンビ爆破阻止の闘いや...村の人々の話をもう少しじっくり扱うだろう。どうしても1/3位は変わると思う。

——クロンビの映画と同時にパルチザンの映画を作ってるそうですが、どんな内容ですか？

●2003年に始めたドキュメンタリーだ。もう12年が経った。やっているうちにそうになった。智異山(チリ山)パルチザン、いや韓国パルチザンに関する話だ。こんなに長くなったのは理由がある。元々朝鮮戦争の前までの南韓(韓国)だけの共産主義者、パルチザンを扱おうと思っていたが、やっていると話が大きくなってしまった。それでもっと勉強をしなければならなかったし、日本、アメリカ、北朝鮮まで撮影範囲を広げていくうちに映画の中心をどこにおくのか混乱してしまっただ。もう私のライフワークだと思って進める。「クロンビ、風が吹く」の次の作品として必ず完成するよう私も望んでいる。題名は「山つつじ(チンダルレ)山河」だ。

——3月の日本ツアーの時にも上映会の様子などカメラで撮ってましたが、映画にする予定ですか？どんな内容になりますか？

●そうしようとやり始めたが、もう少し今後を見なくてはいけない。5月に日本での追加撮影と沖縄撮影を進めながら内容を調整するつもりだ。アメリカツアーの撮影分とともに考えてみなければならない。大切な経験であり資料なので大事に活用したいと思っている。今のところ、これだという形が言えない状況だ。

「クロンビ、風が吹く」日本上映をきっかけに知りあったすべての日本の友達に深い感謝と愛情を差し上げます。ありがとうございました。

**以下は京阪神と金沢での上映会の質疑・トークからピックアップしました**

——映画の中に何度も出てきましたが、43事件というのはかいつまんでいうとどんな事件だったんですか。



●2日前に韓国の政府レベルではなく民間レベルの43事件関係の代表団がアメリカに渡りました。その理由は2つあります。1つはオバマが第二次大戦中にアメリカにいた日本人を敵として取り扱ったことについて謝罪をしたということがあって、韓国ではということが起こったかということ、日本では全く知られていないと思いますが、ノグンニ事件というのがあったんです。ノグンニ(老斤里)という地域でたくさんの民間人が米軍によって殺されました。これについてアメリカはいちおう謝罪はしました。それで43事件は韓国がアメリカの軍政下に置かれていた時に起きた事件で、それに対するアメリカ側のある責任を問う。それは法的なとか賠償とかいう問題ではなくて、謝罪をしてほしいということを求めて行ったんです。

43事件というのは米軍政のもとで韓国の済州島で起こった民間人の虐殺事件なんです。正式に名前がわかっているだけで3万人くらいの方が殺された、名前が出ていない人数も含めると8万人が殺されたと言われていた大きな事件です。1945年に第二次大戦が終わって日本軍が帰ったあとに米軍が入ってきていた時に、米軍が直接43事件に関わったわけではないんですけど、警察とか韓国の軍隊が「赤刈り」といって何年か続いたんです。それは民間人による蜂起だったんですが、なぜ蜂起が起こったのかということ、当時の米軍政下で行われるいろんな政治に対するものだったんです。3万とか8万という多数の犠牲者が出たということも米軍政の下で出てきたということです。

——カンジョンの基地建設反対の闘いにつ



↑金沢メロメロボッチ

いて、韓国の国内ではどういふふううけとられているのか。

●カンジョンの基地問題は韓国では広く国民が知っています。ただその中味、詳細、基地問題の本質的なところはあまり共有されていません。ほとんどの人は国家の方の言い分、つまり安保のために必要なものだというような説明を受け入れていて、その背景にアメリカが深く関わっているとか、この基地がどういう性質のものかということとはあまり知られていません。ただ安保議論についてはおかしいということがわかってきています。そうすると次に言い分として出したのが経済です。日本もそうだと思いますが、全体的な流れがお金とか物質的なものが優先的な価値とされる時代なので、経済的なメリットを出して説得していくとなるほどということになってしまうという傾向があります。

——2007年に海軍基地の計画が明らかになったということですが、表面的な理解では軍事独裁政権が終わって韓国の民主化が進んできたのに、ここまで住民の意思を無視した強圧的な軍港の建設がなぜ行われているのか。

●私にもなぜこんなことが起こっているのか不思議でなりません。韓国では87年の民主化闘争がきっかけとなり、民主主義の国家になったと言われていました。その後30年がたち、2007年に基地問題が表面化したわけですが、しかし李明博大統領、その前の盧武鉉大統領の末期、そして今は朴槿恵(パククネ)大統領ですが、その間に韓国の歴史は逆戻りしてしまっただ。その頃から手続きを無視した強圧的なことが平然と押し進められてきた。付け加えると、金大中大統領の頃は韓国社会の大きな問題をいっぱい抱えていたわけですが、その中で97年にIMF経済危機が勃発しました。それで経済優先という政策が行われたということがあるんです。その97年の前までは政治が資本をあるていどコントロールできた。でもIMF危機以降、韓国人は物質的になんとか生き残らないといけないという考えにとらわれて物質主義、そして資本優先になり、資本が政治をコントロールするような社会に変わってしまったということが言えるかと思います。皆さんご存じかと思いますが、実はいま韓国は「サムソン共和国」と言われていて、財閥や大手企業が政治にまで影響を及ぼしているという現状があります。そのような2点のことが、いま基地建設が抑圧的に強制的に行われることの原因ではないかと思っています。



—— 沖縄と濟州島の連帯とか問題の共有というのはあるんですか？

●去年の5月17日に沖縄で大きな集会があってこの映画も上映されました。それが日本での初めての上映です。実は沖縄とカンジョンはそれ以前から交流があって、沖縄の人がカンジョンに来たり、カンジョンの人が沖縄に行ったりしています。それから「標的の村」とか「圧殺の海」がカンジョンで上映されたりしています。そのあと、9月に沖縄の桜坂劇場で2週間くらいこの映画が上映されました。ですから沖縄とカンジョンは常にそういう連帯の関係をもっています。それから映画に出てきた白い髭のムン神父さんは昔から基地問題に関わっていて、沖縄とも深く交流しています。

—— 映画を作ってきた中で、監督はどこに希望を見えていますか？

●希望がどこにあるのか私にもわかりません。ただ抽象的かもしれませんが、中国の魯迅という人の言葉を引用すると「希望というものはどこかにあるものではなくて、自分がその道を歩くとそこに希望がある」。韓国の場合も、いまカンジョンでこれだけ猛烈に闘っているんな表現もできるようになったんですけど、わずか10数年前までは、こういう映画を撮ったりみんなにこういう話することさえもできないような状況がありました。韓国は南北に分断されてますので、安保ということに反する発言をしたり、そういう闘争をしたりすること自体が禁止されたりできない社会だったんです。でもそれが自由にできるようになったということは、それは人々が絶えず努力してがんばって歩いて、これだけ世の中が変わってきたということでもあります。ですから、皆さんがこうやって歩いていくというところに変化が起こって、そこから希望が生まれてくるのではないかと思います。

韓国というとんでもない国、つまり国家保安法やらいろんなものがまだまだ生き残っている社会なので、こういう非常に厳しい状況に置かれている韓国という国の南の端にある一番小さい村で、そこの人々が7年以上も闘い続けられてきたこと自体が希望ということではないでしょうか。

—— 映画のさいごに「カンジョンは負けないう」というメッセージが出てましたが、それはどういう意味ですか？

●すでに2012年に法的には最高裁判所で基地建設が合法であるという判決が出て確定しています。ですから基地は非常に高い可能性でそのまま建設される。ただ韓国は世界で一番、軍事基地や施設が多い。それに北朝鮮と韓国を合わせて一番軍人が多いんです。それで負けないうの意味は、このカンジョンに基地が出来て終わるとか負けないうことではなく、韓国の問題はこれからも基地の閉鎖運動をしたり移転させたり、カンジョンで闘った人達は様々な形でこれからも闘いを続けて行くし平和運動を続けて行くということです。（\*映画の最後のヒューマンチェーンの字幕に「私たちがあきらめないうかぎり、敗北はありませぬ。」とあるように）



## 上映会主催者からの感想

### ■高山

映画は権力との激しい闘いの中にもコーモアを忘れず、緩急取り交ぜた構成で一気に見る者の心を濟州島へと運んでくれました。美しい映像と美しい旋律の音楽、魂に響く宝石のような言葉の散々に、思わず胸に込み上げてくるものを抑えることができませんでした。深い絶望の淵に立たされた者だけが見ることでできる一筋の希望の光。圧倒的な戦争の嵐が吹き荒れようとしているこの時代にあって、カンジョン村につながる平和の風を起さなければならぬと思った1時間40分でした。エンドクレジットとともに起きた50人の観客の熱い拍手がこの映画の素晴らしさを物語っていました。

### ■神奈川（横須賀）

昼はビニールハウスにシートをかぶせ、下はマットや毛布、ゴザをして、暖かい良い環境でした。集中して見ることができました。夜の野外は気温が下がり、大分寒く感じる中の上映でした。しかし監督が一曲うたったり、上映中に「カンジョン、ピョンファー」「クロンピよ、サランヘー！」と一緒に叫ぶ場面もありました。キャンドルもあり、とてもいい雰囲気でした。

### ■東京高尾

・涙を流しながら見ている人もおり、ほぼ全員が見てよかった、知ることができてよかったという感想だった。

・監督への質疑応答で、よくあるパターンだが「私たちはどうしたらいいのですか？」という質問が出て、監督が「自分で考えて下さい」とつきはなしたのがよかった。答えを求めるのではなく、自分のできることは何なのか考えて欲しい。

・参加者に対し、沖縄でもカンジョンでも近いのだから、自分で現場

に立ってみようと提案。なかなか実感が得られないと言うなら、現場に立ち自分がどう感じるか確かめるべきという意見に多くの人が賛同。ぜひカンジョンツアーを行い監督に案内して欲しいという意見が多数。

### ■長野

憲法9条を守る人と非武装平和の島をつくる人たちの交流を、昨年と同じ憲法記念日前後に、今年、カンジョンの3人の方が来訪して九条を守る行動と交流したいとおっしゃっています。高権一カンジョン村基地反対対策委員長さん、金東元「非武装平和の濟州島をつくる人たち」の中心活動家、李吉珠先生。濟州島でも非武装平和の島づくりと、憲法九条を守り実践する運動の交流をする機会をつくりたい。

### ■熊本阿蘇

沖縄とチエジユ、辺野古、高江、カンジョン、クローバリーズの無法な基地政策の場所から新しい地球市民のつながりが今強く湧き上がってきているのだと感じています。映像も音楽も、そして、韓国の人たちがこうして日本語訳をつけて日本人に向けて映画を公開してくれているのはその証だと受け留めています。『標的の村』もそうでしたが、作品が良いので口伝にどんどん広がっていきました。これからもどんどん小さな上映会があちこちで何度も開かれるといいと思います。僕らもまずは熊本のあちこちで開催できないかなと話しているところです。

この映画に興味があり上映してみたいと思う方は、映画内容や上映規定が書いてありますので、ウェブサイトをご覧になるか直接お問い合わせ下さい。http://amanakuni.net/gureombi/

★ 問合せ：sihomura@ocn.qaz.ne.jp 080-1522-9817 (松村)